

特別支援教育研究論文集

—令和5年度 特別支援教育研究助成事業—

研究協力:独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

教科の視点を明確にした年間指導計画の作成と
指導要録の関連に関する実践的研究

長野県木曾養護学校

教諭 遠山 裕一郎

令和6年3月

公益財団法人みずほ教育福祉財団

要旨

知的障害教育では、特に必要がある場合に各教科等を合わせて指導することが認められている。各教科等を合わせた指導は、知的障害教育の中心的な役割を担ってきたことがこれまでの研究から明らかになっている一方で、活動内容にばかり焦点が当たり、合わせている教科等に重点が置かれていないという課題も指摘されてきた。長野県の知的障害特別支援学校においても、児童生徒の興味関心に根差した、児童生徒主体の教育を実現することを目指し、各教科等を合わせた指導を中心に教育課程が組まれてきた。各教科等の内容を適切に取り扱うため、長野県では共通様式のシラバス（目標・評価の関連項目を示した授業計画）や教科の視点を明確にした個別の指導計画を作成して学習指導要領に則った教育を行っている。しかし、現行のシラバスは具体的に各教科等のどの内容を合わせて指導しているのかまでは示していないという課題があると筆者は感じていた。また、個別の指導計画は、児童生徒ごとに教育上必要と思われる各教科等の内容を取捨選択して作成しているため、年間計画でどのような内容を指導するかが明確になっていないと、適切に作成することができないであろうと考える。

本研究では、本校高等部の授業内容に焦点を当て、教科の視点を明確にした年間指導計画を作成することを試みた。教科の内容は、学習指導要領に示された内容をすべて盛り込むと膨大な量になってしまうため、内容のまとまりに沿って整理することとした。まず、学習指導要領に示された各教科の内容を、内容のまとまりに沿って教科の系統性を考慮しながら一覧表に整理し、1年間の授業内容を一覧表にまとめていった。授業内容は、各教科等を合わせた指導だけでなく、教科別の指導等で扱っている内容等との関連も確認するため、毎日の日課表に対応する形でまとめた。児童生徒の興味関心や実態に合わせて当初の予定から変更したり、授業の中で複数の教科を合科的に扱ったりした単元等は、変更を踏まえて一覧表を修正しながら、実際の指導した内容のまとまりを一覧表に落とし込んだ。最後に、学習指導要領の内容を網羅的に扱うための単元計画を検討し、一覧表に追記した。一覧表に追記できなかったものは、1年間で指導するのではなく卒業までの3年間を見通して、単元を新たに設定したり、各教科等を合わせた指導の中で意図的に指導したりできるように年間指導計画に別記した。

内容のまとまりを軸として、すべての児童生徒にあてはまる年間指導計画と、児童生徒ごとに特に必要と思われる内容を選択した個別の指導計画がつながることで、教科の視点を明確にした学習評価、ひいては指導要録の記入にもつながることが期待される。

現在の年間指導計画を基にしながら次年度以降の計画を立てる方法を示したことや、内容のまとまりを用いて教育課程を編成する方法を示したことが本研究の成果である。しかし、年間指導計画は児童生徒の実態に応じて今後も適宜修正しながら指導することが求められる。また、教科による内容のまとまりの示され方の違いをどのように年間指導計画へ組み込んでいくことが適切であるかを検討することは今後の課題となる。

キーワード：各教科等を合わせた指導 内容のまとまり 年間指導計画